

令和4年度第2回 福山大学備後圏域経済・文化研究センター 地域資料活用研修

「備後の偉人 窪田次郎の地域活動の原点を探求する—父・亮貞の手記を通して」

福山大学備後圏域経済・文化研究センター センター長 青木美保

1. 行事の主旨

本研究センターでは、地域の学校での総合学習における地域学習とも関連付けて、備後地域の偉人を取り上げ、偉人を育てた地域の人々の知恵を学んで現代に生かすため、地域に伝えられてきた偉人に関する資料を、地域の歴史・文化に詳しい講師を招き、若者や地域の方に伝える講義を実施します。令和4年度は2回を予定、第2回目は本社会連携推進センターで、備後の偉人・窪田次郎の地域貢献の原点として、父・亮貞の日記を通して学びます（1回目は「備後の古墳時代」で、7月20日に実施）。講師には、この日記を、窪田次郎邸にのこる土蔵から発見された菅波哲郎氏（元広島県立歴史博物館副館長）を迎えて、資料発見の経緯、窪田次郎の業績、及び父・亮貞の日記から見える当時の地域の生活について話を聞きます。

※窪田次郎 1835-1902 幕末-明治時代の医師。

天保(てんぽう)6年4月24日生まれ。備後(びんご)(広島県)の人。明治4年深津郡深津村(福山市)に民衆教育機関の啓蒙所をひらき、全国にさきがけて小学校教育普及の下地をつくる。また民選村議会を構想し、医学衛生結社による巡回診療をおこなうなど、地域社会の啓蒙につくした。（日本人名大辞典）

2. 行事の概要

日時 2022年11月5日（土）14:00～15:20

場所 学校法人福山大学社会連携推進センター3F301

対象とする資料

窪田亮貞の手記（幕末の慶応3年から明治10年にかけて）

講師 菅波哲郎氏（元広島県立歴史博物館副館長）

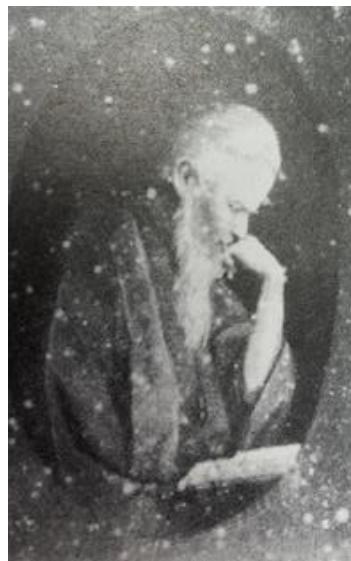
参加者 地域に関心を持つ学生、地域の中高校生、その他一般の方



窪田次郎肖像画



菅波氏が亮貞の日記を発見した窪田次郎邸跡地に立つ土蔵



上・横の肖像画は、広島県立歴史博物館『医師・窪田次郎の自由民権運動』から転載。

上記によれば、父亮貞は、漢方医学を学んだ後に、長崎で蘭医学を学び、帰郷後、加茂町栗根村に医を開業したという。この肖像画裏には、次郎が井伏民左衛門（作家・井伏鱒二の祖父）に与えたことを示す言葉が記されているという。